



## 適期穂肥による良食味米安定生産を!!

秋田地区営農センター 主任 関口 直樹

幼穂形成期(7月15日頃)や減数分裂期(7月25日頃)は幼穂が伸長し、籾数・千粒重に影響を及ぼすもみ殻の大きさが決定する時期であるとともに、倒伏に影響を及ぼす下位節間が伸長する時期でもあります。このため、穂肥は適期に適量を散布することが重要となります。

### ●倒伏させない追肥

葉色が淡いからと追肥を行うと倒伏につながる可能性が大きいため、追肥は十分に考えてから行いましょう。また、出穂期に近い追肥はタンパク質が高くなり、食味低下につながりますので、行わないようにしましょう。幼穂形成期の追肥については草丈、葉色を見ながら行うようにしましょう。

### ●幼穂形成期(7月15日頃)「あきたこまち」の場合

- ・幼穂長2mm、葉齢11葉
- ・基準量10aあたり 窒素成分量1kg

#### 【肥料例】

肥料名	(Nチッソ — Pリンサン — Kカリ)	現物投入量
ニュー穂肥34号	(15 — 4 — 15)	約7kg/10a
NK化成404	(14 — 0 — 14)	約7~8kg/10a

※施肥の判断はスパット巡回等、現在の生育状況を把握してから慎重に行ってください。

### ●減数分裂期(7月25日頃)「あきたこまち」の場合

- ・幼穂長5mm、葉耳間長±0cm
- ・基準量10aあたり 窒素成分量1.5kg

#### 【肥料例】

肥料名	(Nチッソ — Pリンサン — Kカリ)	現物投入量
ニュー穂肥34号	(15 — 4 — 15)	約10kg/10a
NK化成404	(14 — 0 — 14)	約10~11kg/10a

※無理な追肥は、食味低下や倒伏につながるのをやめましょう!

### ●斑点米カメムシ対策

畦畔や農道、休耕田では雑草が出穂する前に草刈りを実施しましょう。

斑点米の原因となる「アカスジカスミカメ」は水田内のイネ科雑草の穂に誘引され、水田内に定着する特徴があります。水田雑草のとりこぼしが多い圃場では後期除草剤の散布が必要となります。

